【時】

二年　画数 10　筆順 旦 昨 時　オン ジ　クン とき

成り立ち

むかしは、お日さまのうごきで〝時〟をはかりました。日の出を〝あけ六つ〟といい、日の入りを〝くれ六つ〟といい、このあいだを六つにわけました。だから〝一時〟はいまのおよそ二時かんにあたります。

六時ごろが〝六つ〟、八時ごろが〝五つ〟、十時ごろが〝四つ〟、十二時ごろが〝九つ〟、〝二時ごろ〟が〝八つ〟、四時ごろが〝七つ〟です。

お寺では、お日さまのうごきを見て、一日に六かい、かねを時のかずだけついて人びとにしらせました。お寺とお日さまとで〝時〟をあらわすわけです。

〔時の〝寺〟は〝基準〟の意味で、「日を基準として定めた〝時〟」を表したものである。〕

使い方

▽このもんだいをとくには、ずいぶん時間が、かかった。

▽おとうとが「いま、なん時？」と、きいたので、「いま、十二時だよ」と、おしえてやりました。

▽むかしから「時はかねなり」といって、時というものは、おかねとおなじくらい、いえ、それいじょうに、たいせつなものです。おかねは、なくしても、また、かせげばいいのですが、いちどうしなった時は、もう二どと、もどってきません。

熟語例

▽時刻（時の、あるいってん。「しゅうごう時刻は、ごぜん九時です」などといいます。）

▽時間（時と時の間。ただし、今では「時間」は「時刻」とおなじいみにつかわれることがあります。「時間におくれてしまった」などというぐあいです。）

▽時期（時。おり。「まだ時期が早い。もうすこし、まったほうがいいとおもう」などというふうに、つかいます。）

▽時報（時刻のおしらせ）

▽時計。時雨。

【室】

二年　画数 9　筆順 宀 宀 宀 宀 室　オン シツ　クン むろ

成り立ち

そらをとんでいた〝とり〟が、じめんにおりつこうとしているすがたをあらわした字で、「至りとどまる」といういみの〝至〟と、家のいみの〝宀〟とをくみあわせてつくった字です。

「人が至りとどまる家」というういみの字で、人がおちついてやすむ〝へや〟のことをあらわした字です。

〝へや〟とは、家の中をいくつかにわけたものの一つのことです。

〝むろ〟は、〝小屋〟というういみのふるいことばで、むかしから〝室〟の字でこれをあらわしました。

使い方

▽「教室では、しずかにして、さわがないこと」と、先生がおっしゃいました。ぼくは、いつも教室でふざけているので、「しまった」と、おもいました。教室は、べんきょうをするところなのだから、ほんとうにしずかにしていなければいけないと、はんせいしました。

▽かぜをひいたので、おかあさんにつれられて、びょういんにいきました。診察室に入ると、やさしそうなおいしゃさんが、「どうしたの」と、ききました。診察室の中は、しょうどくやくのにおいがしていました。

熟語例

▽室内（へやの中。対「屋外」。「室内プールで、およぎました」などといいます。）

▽浴室（おふろばの、あらたまったいいかたです。おゆを浴びるので「浴室」と、いいます。）

▽寝室（寝るためのへや。日本では、トクベツに寝室をもうけているところは、すくないでしょうが、アメリカや、ヨーロッパなどでは、寝室があります。）

▽氷室（氷を入れておく小屋のこと。）